



こもれび新聞



暑くなってきましたね…

熱中症にご注意を！

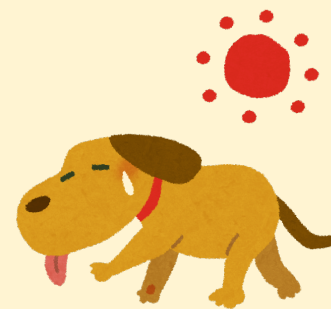


最近、気温が高い日も増えてきました。実は、本格的に暑くなる前の5月頃から熱中症にかかる子が増えてきます。理由として、まだ完全に暑くなる前なので、人は平気でも、動物、特に犬にとっては気温が高い日があるからです。

人間と違い、ペットたちは汗をかいて体温を下げるできません。代わりに、ハアハアという浅い呼吸（パンティングといいます）をすることで体温調節をします。しかし、気温が高すぎるとそれだけでは体温が下がらず、熱中症になる危険があります。

熱中症の症状には次のようなものがあります。

- ・呼吸が速い・荒い、体が異常に熱い
- ・元気がない、ぐったりしている、ボーッとしている
- ・舌や口の中が赤い（重症になると紫色になります）
- ・落ち着きがない
- ・よだれが多い
- ・自分で水を飲みに行かない



このような症状が見られたら、すぐに動物病院までご相談ください。

また、熱中症を予防するために、暑いなと思ったら迷わずエアコンをつける、十分に水分を取れるようにする、極端に暑い日は屋外での運動を避ける（お散歩は朝晩の涼しい時間帯に！）などに気を付けてください。特に、車内での留守番は絶対に避けてください。夏場は短時間でも急激に車内の温度が上がるためとても危険です。猫は比較的暑さに強いと言われていますが、ここ数年の暑さで熱中症になるネコちゃんも増えています。暑い日はネコちゃんがいるお部屋もエアコンをつけてあげてください。その時に部屋の中に毛布やお布団など寒かった場合に隠れる場所を作っておくと、自分で調節ができるため安心です。

温度管理に気を付けて、楽しい夏が過ごせるといいですね！

いてててて…



おなかいたい…



それ…食べちゃダメ！

異物誤食（誤飲）について

おうちの中やお散歩中に、落ちていたものを食べてしまったことはありませんか？食べてはいけないものを食べてしまう、いわゆる『異物誤食（誤飲）』は、人と一緒に暮らすワンちゃんやネコちゃんにとっても多い事故です。食べてしまったものがおなかの中で詰まってしまったり、中毒を起こしてしまうことがあるため、大変危険です。

おなかの中に詰まるもの（ボール、ぬいぐるみなど）を食べてしまった場合、食道や胃の出口、腸で詰まることがあります。小さいもので飲み込んでから短時間の場合は催吐処置（吐かせる処置）をします。大きいものや吐かせると危険なものは、手術でおなかを開けて取り出します。ひも状異物（リボン、長いひも、糸など）は特に危険で、腸で引っかかると、広範囲の腸が機能なくなってしまう（壊死してしまう）場合があります。

中毒をおこすものは、それぞれの物質によって対処法やお薬が異なります。点滴や注射をしたり、場合によっては胃の中を洗浄したりします。

万が一異物を食べてしまった場合は、すぐに動物病院に連絡し、指示を仰いでください。食べてしまったものや経過時間により対処法が変わってきます。また、経過時間によっては、動物の命に関わる場合もあるため、様子を見ず、すぐに病院に電話をしてください。その際は、なにを、いつ、どのくらい食べてしまったかをお伝えください。また、来院される時に現物と同じもの、食品などであればパッケージなどがあれば、一緒にお持ちください。

そして何よりも、誤飲してしまう可能性があるものを動物がいるお部屋に置かないように気をつけましょう。

☆異物誤食（誤飲）で多いもの

ボールなどのおもちゃ	ひも
輪ゴム（髪ゴム）	タオル
梅干し・桃などの種	竹串
ペットシート	乾燥剤
靴下	…など

☆犬・猫に中毒を起こすもの

タマネギ	キシリトール
ニンニク	ブドウ・レーズン
チョコレート	カフェイン
一部の観葉植物	タバコ
人間の薬	…など

健康診断

キャンペーン中！

（7月末まで）

☆詳しくはスタッフまで

こもれびペットクリニック

〒243-0410

神奈川県海老名市杉久保北4丁目3-11

TEL 046-206-4539

Komorebi-pet.jp

